

2024年度 メリー★ポピinz 和光ルーム

事業報告書

(保育所における自己評価)

I. 2024年度の概要 ~年度の基本方針を受けて~

法人の基本方針「にんげん力。育てます」をもとに、和光ルームの園目標達成に向けて、「子どもを真ん中にした子育て」「共に育つ」「交わる」ことを実践してきた。

子どもの育ちを見つめ、思いを感じながら、言葉・気持ち・行動に寄り添う保育を行う中で、子どもたちが自分の気持ちを存分に表現できる関係を築くことができた。それをもとに環境を整え、経験を重ねることで、さまざまな心模様になり、また新たな発信を繰り返すことができた。

その経験を通じて、子どもたちが「大切にされている」「愛されている」と感じ、自分を好きになる。そして、今後の成長の中で自己肯定感を持てるようになることが、人格形成の第一歩となることを願い、努めてきた。

また、日々の様子を保護者と共有しながら、喜びや悩みを分かち合い、共に成長しあう関係づくりにも努めた。

地域交流の一環として、商店街ツアーや、各施設や店舗の方々と子どもたちの関わりを大切に育んできた。これを継続し、定期的に交流を重ねることで、より深いつながりを持つことができた。どろんこ祭りでは、保護者とともに作り上げる行事となるよう、ご意見ご提案をいただきながら計画を進めた。その結果、多くの方々に来園していただき、「地域の子育ての場」として、また「園を知っていただく」きっかけづくりの場となるよう努めた。

今後も、機会を排除しきり、個々の育ちを保証していくために、大人の生きる力を高め、地域とのつながりを深めながら、さらなる保育の質の向上に努めていきたい。

〈1〉 保育内容の充実・質の向上

1	計画・ねらい	日々の体験を大切にし、心身ともに充実した一日を過ごす
	実践結果	・法人の日課である畑仕事、リズム遊び、座禅、雑巾がけ、長距離散歩などの户外活動を継続的に取り入れることで、健康なこころと身体づくりに努めた。
	次年度方向性	原点回帰として、スタッフ全員が日課の意図を理解し、すべてのスタッフがその意図を自らの言葉で語ることができるようになる。そのうえで日々の積み重ねを大切に実践する。
2	計画・ねらい	子どもの姿、発達の見通しをとらえた保育計画
	実践結果	・個々の育ちを見極め、必要な経験や課題を保育計画に組み込む意識を高めるよう努めた。また、偏りのないように子どもの姿をスタッフ間で共有する場を大切にした。
	次年度方向性	子どもの育ちの見通しをスタッフ全体で共通認識できるよう、学びの時間を確保する。
3	計画・ねらい	必要に応じた丁寧な保育

	実践結果	・それぞれの子どもが発達の最近接領域に取り組むことができるように見守り、手や口を出しすぎない見守る保育が展開できるように努めた
	次年度方向性	・関わる大人によっての見守り方、補助の仕方の差をフォローしあうことのできるスタッフ集団となる

〈2〉保育所を利用する子どもの保護者への支援

1	計画・ねらい	心のこもった保護者対応
	実践結果	タイムライン、連絡帳、お迎え3分間対応を丁寧に行いながら、保護者の方との関係性を大切にしていった
	次年度方向性	お迎え対応等で、保護者様の気持ちに寄り添いながら負担にならないタイミングで会話を重ね、成長と共に喜び悩む関係をさらに築いていく
2	計画・ねらい	子どもたちの成長の共有を図る
	実践結果	・日常の活動や経験を伝えるドキュメンテーションを作成し、行事やお迎え時の待ち時間等に見ることができるようにした。写真だけでは伝わらないエピソードや成長の見通しを記載することで共有に努めた
	次年度方向性	引き続きドキュメンテーションやタイムラインを通して、活動はもちろん、成長の見通しを伝える

〈3〉地域の子育て支援事業

1	計画・ねらい	地域とつながる
	実践結果	・子育て支援「ちきんえっぐ」、青空保育、気まぐれ掲示板、商店街ツアー、どろんこ祭りの開催を行う。より幅の広い世代の方が参加、来園してくださり、知っていただくきっかけとなった
	次年度方向性	和光ルームが地域の子育ての場となるよう、引き続き気軽に来園できるイベントを発信、実践していく
2	計画・ねらい	居心地の良い空間づくり
	実践結果	・明るく衛生的な空間を保てるように努めた。また、プロの保育者としての専門知識、子育て経験豊富な保育者が対応することで安心して話ができる場となるよう努めた
	次年度方向性	・安全であることを第一に衛生面、清掃面での工夫、仕組みづくりを今後の課題とする。保育者として専門知識を伝える、コミュニケーション力の向上に努める

〈4〉次世代を担うスタッフ育成

1	計画・ねらい	子どもに尊厳をもって接する
	実践結果	子どもが生まれながらにして持つ生命や人格を尊重し、一人の人として自分のことを自分で決め、その子らしく生きることのできるよう、丁寧な関わりを意識することに努めた。大人としての主觀ではなく、一人ひとりとの言動、思いを探っていった

	次年度方向性	尊厳を持った関わりの基本ができるよう、スタッフの勤務体制、事務業務タスク管理を行い、保育者が心身ともに安心して働くことのできる体制づくりに努める
2	計画・ねらい	子どもの発達から活動計画や環境を整える力をつける
	実践結果	発達の学び、理解を深めながら子どもの興味関心に沿った環境を整えるよう努めた
	次年度方向性	個々の育ちはもちろん、子ども、大人の動線を意識した環境づくりを行うことで、さらなる活動の幅、育ちにつなげていく
3	計画・ねらい	コミュニケーション力の強化
	実践結果	お互いに気づいたことを言い合う関係を築き、風通しの良い人間関作りに努めた
	次年度方向性	一人ひとりのモチベーションをあげることができるように、保育のやりがい、楽しさを感じることのできる関わりを意識し、伝えるべきことは伝えあう関係性を築く

〈5〉環境実施目標

1	計画・ねらい	食の循環、食材に触れ興味をもつ
	実践結果	畑仕事や食育活動を通し食材に触れる機会をもった。給食の残渣の把握を行い、無駄のない食材利用に努めた
	次年度方向性	食材のその行方を子どもたちと追いかながら、環境問題を知る機会を設けていく
2	計画・ねらい	環境への意識を身につける
	実践結果	身近にある水、トイレットペーパー、紙などを大切に使う、資源に終わりがあることを伝え、まずは大人が意識し無駄のないように努めた
	次年度方向性	子どもたちに理解ができるように水の誕生、紙のできるまで、その行方まで具体的に可視化しながらさらに、環境の知識につながるようにする
3	計画・ねらい	畑活動を五感で体験する
	実践結果	土づくり、泥遊びを通し身体の免疫力を高め、土の変化を触れる感触、畑でできた野菜の匂い、食感、彩など経験を重ねた
	次年度方向性	土の肥料作りなどコンポスト、野菜くず等の有効利用を行っていく

〈6〉本物に触れる

1	計画・ねらい	日本古来の伝統行事を知る
	実践結果	季節を感じ、それぞれの行事の習わしを可視化した資料や紙芝居、絵本を通して知り、実際にひな人形、祭り、豆まきなどを行った
	次年度方向性	引き続き、日本の伝統文化をまずは保育者が学び、残すべき伝統をつないでいくことができるようにしていく
2	計画・ねらい	季節を知る

	実践結果	9時出発の戸外活動を通して、朝日のまぶしさ、季節の空気、花、草木、生き物、霜柱など季節の移り変わりを五感で感じることができた
	次年度方向性	9時出発を大切に重ねながら、こころと身体の健康につなげ、季節で発見したものを記録にしながら子どもたちと振り返る機会を設ける
3	計画・ねらい	食に触れる
	実践結果	畠活動、食育活動を重ねていった。野菜からあふれるみずみずしさや、切り身ではない魚の解体など五感で感じる活動を行った。
	次年度方向性	引き続き食につながる活動を行い五感で感じ、食を大切に思うことのできる活動につなげていく

2. 施設運営

〈1〉児童利用状況

月極利用児童受託状況（延べ人数）

	0歳児	1歳児	2歳児	3歳児	4歳児	5歳児	合計
年度前半： 4~9月	6人	6人	7人	0人	0人	0人	19人
年度後半： 10~3月	6人	6人	7人	0人	0人	0人	19人

延長保育利用状況

	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	合計
利用総 人数	3人	4人	4人	5人	17人	19人	27人	20人	36人	23人	15人	15人	193人
うち0 歳児	0人	0人	1人	1人	16人	17人	25人	17人	27人	17人	11人	11人	143人

(解説) 18時以降の利用人数とする

一時保育利用状況

	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	合計
利用総 人数	0人	0人	0人	5人	0人	0人	5人						
うち0 歳児	0人	0人	0人	0人	0人	0人	0人						

(解説) 余裕活用型一時預かり実施

〈2〉開所時間

7時00分～20時00分

〈3〉スタッフ構成 (3月1日時点)

常勤 スタッフ	保育士	5人	看護師	1人	栄養士	0人	調理員等	1人
パート スタッフ	保育士	2人	補助	2人				

3. 運営報告

〈1〉施設内会議

会議名	実施回数	会議内容
園会議	月1回 ※2,3月は策定会議にて実施	・コンピテンシー ・保育の質向上に関わる勉強会 ・園内研修 研修報告からの学び 保育の課題の話し合い
給食運営会議	月1回	食育、離乳食、アレルギー食、喫食状況の共有、課題提案
事故防止委員会	月1回	インシデント、ヒヤリハットの分析 自園含む全園でのケーススタディと改善策
ケース会議	月1回	振り返りと今後の課題
保健会議	月1回	感染症、マニュアル確認、感染予防、衛生知識

〈2〉出席した施設外会議 (Web 参加含む)

会議名	実施回数	参加スタッフ
施設長会議	月1回	施設長
施設長勉強会	月1回	施設長
食育会議	年4回 (5.8.11.2月)	施設長、調理スタッフ
保健会議	年4回 (5.8.11.2月)	施設長
子育ての質を上げる会議	月1回	保育士

〈3〉係の設置状況

係名	活動の様子・省察
衛生管理係	園内汚染区域を中心とした衛生管理・感染症情報収集発信
安全対策係	環境・玩具の点検・避難訓練の実施と見直し・環境安全の整備
防火管理者	避難訓練の実施、防災自主点検を用いての管理運営
食品衛生管理係	食品管理・食育計画の立案確認・調理室の衛生管理
畠係	プランター準備、植える種苗の準備、成長・収穫の管理
生き物係	生き物の生育管理

〈4〉行事係の設置状況

係名	活動の様子・省察
どろんこ祭り係	祭りの保護者サポーターとの打ち合わせ・祭りの立案・仕入
地域交流係	地域支援につながる活動の発信、準備

4. 保育支援

〈1〉保育・保育参加・保護者面談および発達相談・園児の保護者への支援および意見要望への対応

保育	・保育参加を通して、子どもたちの育ちや、人間関係、保育園での生活の様子、保育者の関わりを見ていただく。普段と同様の姿を見ていただく事は難しいこともあったが、周囲の子どもの活動や連絡帳や3分間のお迎え対応での話から我が子を想像する、家庭でのお子様とのかかわりのヒントになったというご意見を頂く
保育参加	4~3月まで 合計 4名 が参加済み (3月1日時点) ・
保護者面談および発達相談	4~3月まで 合計 4名 が参加済み (3月1日時点) ・
運営委員会	運営委員会を6月7日に当園にて実施し、参加した保護者3名 運営委員会を11月22日に当園にて実施し、参加した保護者3名 詳細は議事録に記載

〈2〉計画した年間行事の振り返り

- ・別紙「2024年度年間スケジュール」に掲載
- ・保育参加・保護者面談は随時開催

〈3〉給食・食育に関する実践結果

1	計画・ねらい	調理員、保育者、施設長は子どもと一緒に食べる
	実践結果	同じテーブルで調理員、保育者、施設長が子どもと一緒に食することで、会話が広がる、子どもの喫食状況がよりよくわかる、楽しい時間となった
	次年度方向性	引き続き、子どもと食卓を囲みながら、家庭的な雰囲気、大きなお家につながり、意欲的に食べることを目標とする
2	計画・ねらい	子どもたちが自ら選び食す
	実践結果	好きなものを好きなだけ食べる、苦手なものも少しの量にして味わうことにつながった。たくさん食べたい思いも、おかわりの残りを見ながら他児に聞き、分け合うことにもつながっていた
	次年度方向性	大人が配るのではなく、自分で選び運ぶことで食事の準備の時間を大切にしていく
3	計画・ねらい	食に興味をもつ
	実践結果	食材の栄養や効果を盛り込みながら会話をすることと、友だちと一緒に食べることで刺激を受けて苦手意識があるものや、見た目で初めてのものへも興味がわき、目の前におかわりを並べることで食事の意欲につながった
	次年度方向性	給食以外でも、プランターや畠活動を通して料理の中の食材に興味を持つなど、さらに食への興味につながるようにしていく

〈4〉保健に関する実施結果

実施項目	詳細
園児健康診断	6月17日／11月7日に実施
歯科検診	6月14日に当園にて実施
保健だより	毎月25日におたより配信を実施
スタッフ健康診断	年1回実施
スタッフ検便	毎月1回（全スタッフ対象）
その他実施した園児への保健指導、又は、取組等	絵本や紙芝居を通して日々の生活の中で、手洗い指導、歯磨き指導、感染症防止につながるうがいの大切さを伝えていった
流行した感染症	なし
発作・痙攣等の対応	なし

エピペン使用できるスタッフの状況	・4月11日の園会議にてエピペン研修を全スタッフで行う。 ・本日時点で、在籍スタッフ11名のうち、11名が使用可能
その他保健に関する取組	新型コロナウイルスおよび他ウイルス感染予防のため、うがい指導・手洗い指導を行う。また消毒・換気を徹底する

〈5〉各種点検

危機管理	設備点検・事故防止チェック	4・7・10・1月の25日に計4回実施済み
	防災自主点検 (備蓄品点検含む)	6・12月の25日に実施済み
	避難消火訓練	毎月1回／15日に計12回実施済み
	不審者侵入訓練	6・12月の25日に実施済み
	情報セキュリティチェック	5月・11月に実施済み
	誤飲・誤嚥防止チェック	4・7・10・1月の25日に計4回実施済み
	衛生管理点検表／毎週	毎週金曜日実施
	衛生管理点検表／毎月	毎月25日に計12回実施済み
	個人衛生点検簿／毎日	毎日実施
健康管理	予防接種状況・既往歴の確認 ／保険証期限確認	年2回／4・10月 ⇒4月4日、10月1日に実施済み
	身長体重測定	毎月1回／20日 実施済み
	児童健康診断	内科健診 各年2回／6月17日、11月7日 歯科健診 各年1回／6月14日
運営管理	児童・保護者の人権に関するチェック	年2回／4・10月の園会議時 ⇒4月12日、10月11日に実施済み
	コンピテンシー自己採点	毎月1回／園会議冒頭5分間 実施済み
	利用者アンケート調査	8月25日～9月5日に実施済み

〈6〉実施した環境整備の状況

I	計画・ねらい	温かなぬくもり、親しみとくつろぎの場を創っていく。
	実践結果	整理整頓を心掛けすべての利用者が気持ちよく過ごせるように努めた

	次年度方向性	部屋の隅、棚の上、行事の前後にものを一時的に置くなど、危機管理にもつながる事なので、徹底して恒常化に努める
2	計画・ねらい	パーソナルエリアを保つことのできる環境設定。
	実践結果	子どもが安心できる場所、遊びや活動の保証をすべく環境づくりを徹底した
	次年度方向性	個々の遊びの保証をすることで集中力や個々の興味関心にもつながるので大切にしていく
3	計画・ねらい	子どもの発達を理解し、子どもが興味関心を持ち、自ら入りたくなるような保育環境を用意する。発達、興味に見合った手作り玩具を含めた設定を行う。
	実践結果	現在の発達を見極めた上で今後の予測を立てながら、子どもの興味関心を探ることでそれぞれに合った環境設定を提案、実行していくことに努めた
	次年度方向性	さらに定期的に環境の見直しを行いながら、子どもの育ちを見極めて工夫をしていくことが課題となる。

〈7〉手作り遊具・家具安全点検結果

手作り遊具・家具無し

5. 危機管理（防災・ケガ事故防止・防犯・光化学スモッグ）

1	実践結果	消防計画に則った自衛消防組織を基に避難訓練（毎月1回）・防災自主点検（年2回）・日常点検を実施
2	実践結果	怪我事故防止の為事故防止チェック（年4回）・設備点検チェック（年6回）を実施。事故防止委員会会議を実施し、園内で起きているヒヤリハットやインシデントの分析を行った（月1回）。怪我発生時には法人の怪我発生時フローチャートに従って行動した
3	実践結果	不審者侵入訓練（年2回）を実施 全職員笛を携帯し、非常時に備えた。自治体や近隣園からの不審者情報を保護者、本部と共有した
4	実践結果	光化学スモッグの知識を身に付け、「光化学スモッグ注意報発令配信メール」に登録し、発生時には行政指示に従って対応した。

6. 実習生・中高生の受入

〈1〉今年度の振り返り

次世代を担う保育、福祉の場で活躍する人材を育成する。また自園のスタッフの保育を見直す、振り返るきっかけとし共に成長できる機会となった。保育園は地域の社会資源であり、地域研修の場であることを意識し、実習生、研修生を受け入れた。

〈2〉 実習生の受入

日程	学校名	人数	実習内容
2月3～17日	日本児童教育専門学校	1人	責任実習

7. スタッフ研修

〈1〉 園内研修の開催

	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月
コンピテンシー自己採点	12日 10名	10日 10名	14日 11名	12日 12名	9日 12名	13日 12名	11日 11名	8日 10名	13日 11名	17日 11名	25日 12名	14日 12名

〈2〉 外部研修への出席

日程	主催	研修名	出席	施設長推薦
6月11日	埼玉県人権保育研究会	人権保育研修	1名	有
6月18日	和光市	和光市全体研修「子どもの人権」	3名	有
9月28日	イムス記念病院	園児の食物アレルギー研修	2名	有

〈3〉 法人支援制度の活用・出席

	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月
業務改善研修 (子育ての質を上げる会議)	17日 1名	15日 1名	27日 1名	18日 1名	22日 1名	19日 1名	17日 1名	21日 1名	19日 1名	23日 1名	20日 1名	21日 1名
施設長勉強会	17日 1名	15日 1名	26日 1名	17日 1名	21日 1名	18日 1名	16日 1名	20日 1名	18日 1名	22日 1名	19日 1名	19日 1名
全社員研修	12月に動画視聴にて研修を実施（全スタッフ対象）											

〈4〉 スタッフ個人別育成計画

施設長が年1回実施するフィードバック面談時に「個人ごとの次期の目標設定と併せて、次期の育成計画を施設長が所定様式を使用して個々に伝えた。半期に一度、中間面談の実施を行い、進捗確認をした。

8. 地域交流

〈1〉 今年度方針・テーマの振り返り

「つながる」をテーマに、新たな施設、店にご協力を頂いた。
商店街ツアーをきっかけに、各ご家庭で再度訪問していただく、園のイベントにご協力いただくことで「継続的な関わり」「地域の方とのつながり」を積極的に行った。

〈2〉 実施した地域交流

活動行事	内容	
青空保育（保育園主催）	月1回	公園名：外環上部 C 広場にて 参加延べ人数：13名
商店街ツアー	週1回	主な行き先：和光消防署、和光市駅、和光市駅前交番、和光市駅前出張所、和光市図書館、東京メトロ和光検車区、武蔵野銀行、パパピニヨル、いなげや、DERICO、床屋 RUSH、ファミリーマート、窓辺の絵本屋 Canon かのん、第一デンタルクリニック等
世代間交流	月に一回	生き生きプラザにてシニア交流
異年齢交流	和光どろんこ保育園との交流	
その他活動	1月21日に保育室にて	「フィリピンの文化を知る」異文化交流を実施

9. 小学校との子ども間交流・職員間交流

該当なし

10. 要支援児

〈1〉 個別支援計画の作成・見直しの状況

個別支援計画作成の対象者は1名。支援計画の作成を行い、月一回のケース会議を行った。対象児童が近隣の発達支援施設への定期的な利用を開始されたことで同施設と連携を持ちながら継続的な支援を行うことができた。

〈2〉 毎月のケース会議開催の状況

・4～3月に計9回開催 参加者：各4名
昼礼時間にケース会議を開催する。法人内の発達支援部門のスタッフや、個別支援の施設からのアドバイスや、日々の振り返りをもとに支援計画を作成することができた。

〈3〉 進級引継、および小学校への引継状況

スタッフ全員で、子どもの現状と課題を整理し共有していた。継続的な関わりを今後もできるよう系列園、転園先に和光市の転園児童保育要録等を利用し共有した。

11. 子育て支援事業

今年度の子育て支援事業・イベント・子育て相談・青空保育を含む延べ来園者数

4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	合計
8名	0名	0名	42名	11名	0名	0名	0名	9名	0名	0名	4名	74名

実施項目	詳細												
園開放	(月)～(土) 9:30～16:30 にて実施 来園延べ人数：74名												
子育て相談	(月)～(土) 13:00～16:30 ⇒計0件相談実施済み												
自然食堂 親子ランチ 交流	毎週(水) 10:00～12:00 ⇒計12回実施済み 参加者延べ人数												
	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	合計
	0名	0名	0名	0名	0名	0名	0名	0名	9名	0名	0名	0名	9名
どろんこ 芸術学校	毎週(水) 10:00～12:00 ⇒計12回実施済み 参加者延べ人数												
どろんこ 自然学校	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	合計
	0名	0名	0名	0名	6名	0名	0名	0名	0名	0名	0名	0名	6名
勝手籠設置	(月)～(土) 7:00～20:00 にて実施 門扉前に無人のフリーマーケットかごを設置												
ちきんえっ ぐだより	毎月1日配信												
青空保育 (支援センター主催)	月1回 公園名：外環上部C広場にて 参加者延べ人数												
	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	合計
	8名	0名	0名	0名	5名	0名	0名	0名	0名	0名	0名	0名	13名

12. 園運営の向上

〈1〉 福祉サービス第三者評価の受

今年度受審なし

〈2〉園による自己評価の実施

2024年1月16日に「内部監査チェック表」を用いて、以下の通り、自己評価を実施済み。

自己評価開始時刻：8時00分

自己評価終了時刻：17時00分

自己評価実施者：施設長、保育士

〈3〉利用者アンケートの実施

施設利用 保護者に対し、アンケートを実施

アンケート配布日：8月25日

アンケート回収率：100%

活動、保育内容、スタッフの挨拶、子どもへの言葉かけ、お迎え対応、園環境の設問について、満足、又は良いと答えていただく事ができた。また自由記述では「家では見られない姿を知ることができた」「異年齢保育だからこそ成長の促進」「信頼できるスタッフ、保育環境」等があった。
「小規模園だからこそ保育」「交わる」ことができるよう努めていきたい。

13. 苦情解決・ケガのうち報告すべき事項

ご意見ご提案デスク（HP・メール・電話）、口頭・書面・連絡帳・ご意見ご提案ボックスによって寄せられた全ての意見・要望・苦情について、原則、「苦情対応体制」に従い、法人として解決を図る。以下、報告すべきご意見・ケガに関しては次の通りとなる。

〈1〉報告すべきご意見

0件

〈2〉報告すべきケガ（事故含む）

0件

※なお、報告書内の3月度の数値結果に関しては、すべて見込みの数値となっている。

以上

作成日：2025年3月15日

作成者：メリーグローブピングス 和光ルーム 施設長 高安百合子